

令和6年度事業計画書

東京商工リサーチによると、前年度に続き、人手不足や物価高、大手参入による競争の激化から、2023年1～11月の介護事業者年間倒産件数は110件（前年比18.5%減）と高い水準を維持しており、人手不足による倒産が10件と過去最多を記録した。また、介護報酬は公定価格のため、物価高騰に伴う燃料代や介護用品などの価格上昇分の価格転嫁が難しく、当法人においても、費用の増大が大きな影響をもたらしている。

令和6年度は6年に1度の医療・介護・障害のトリプル改定であり、大きな改定の年となる。介護報酬においては全体の改定率が1.59%のプラス改定となり、介護報酬が初めて診療報酬を上回った。サービス毎に基本報酬を見た場合に、令和4年決算ベースで収支が赤字だった特養や老健などの施設系を中心に増額された。内訳として、0.98%は人件費（処遇改善）に当たるため、実際の改定は0.61%となる。その上、加算についての新設や要件が変更した等、柔軟な対応を行っていく必要がある。今回の改定は医療・介護連携に焦点を当てており、急変時の入所者の入院先の確保できるよう、病院との提携や情報連携等、事務的な部分においても、新しいシステムに柔軟に対応していかなければならない。

大山やすらぎの里は創設から20年を迎えると同時に、福祉医療機構からの5億5362万円の借入が令和6年4月の返済を最後に終了する。物価が高騰する中、将来的な大規模修繕に向けて、この返済額だった部分をどれだけ積み立てに回すことができるのか、費用を削減できるのかが重要であり、物価の動向と合わせて、注意していきたい。

大山町内において、在宅サービスの新規利用者の獲得が前年に比べて難しくなっている。例年と異なり、春の利用者数増が伸び悩んでおり、医療施設と福祉施設で利用者の獲得に大きな差が出ている。今後利用者数の減少が予想される中、在宅サービスについて、事業所単体ではなく、法人として地域に出ていき、身近に感じて頂き、大山やすらぎの里で良かったと思ってもらうことで、サービスの利用に繋げていきたい。

調査内容に記載したように、介護業界は常に人材不足である。しかし、当法人の令和5年について、定年退職を除き離職がなかった。人事の変更による体制の変更や、相談しやすい雰囲気づくり、職員一人一人の意識の向上が、離職ゼロに繋がったのではないかと考える。こういった体制を維持できるよう、新しい風を吹かし、法人職員という自覚をもってもらうことで人材を確保し、活用できる施設づくりを目指したい。

1. 重点事項

- 1) 2024 年の介護保険法改正への対応
- 2) 柔軟な新型コロナの感染対応の実施
- 3) 労働環境の向上
 - ① ICTを活用した介護サービス
 - ②介護ロボット導入の継続
 - ③職場環境の改善（業務内容の細分化）

2. 設備整備等

- 1) 移乗リフトの導入
- 2) センサーベッドの導入
- 3) 眠りスキャン eye の導入

3. 修繕

- 1) 厨房床修繕 98 千円
- 2) 玄関車寄せの修繕 957 千円

4. 事業内容

大山やすらぎの里

特別養護老人ホーム	定員	57名
ショートステイ	定員	9名
デイサービス	定員	45名

居宅介護支援事業

地域支援事業 大山町受託事業、自主事業

大山やすらぎの里めぐみ館

地域密着型特別養護老人ホーム 定員15名

皆生やすらぎの里あおい

軽費老人ホーム A 型 定員 50名

5. 地域貢献について

- 1) 大山やすらぎの里めぐみ館の運営
- 2) 各地区公民館への出前出張講座
- 3) 現在ある運動器具の活用（地域開放）
- 4) 一般介護予防におけるフレイル予防及び運動教室

6. 福利厚生への取り組み

- 1) 10年勤続者 対象者3名
- 2) 20年勤続者 対象者8名
- 3) 適正な有休消化

7. 職員の資質の向上及び処遇改善について

介護サービスの質の向上と職員の処遇改善を行う。

- 1) 施設外研修受講の推進
- 2) 専門職としての知識、技術向上を図るため資格取得の奨励
- 3) 受講したい講習と受講させたい講習のマッチングを行い「やる気」の向上
- 4) 研修計画を樹立し職員が万遍なく受講できるような配慮
- 5) 施設内研修の充実（月1回全体研修会開催）
- 6) 喀痰吸引等実地研修の実施
- 7) 重点的な研修
 - ①ユニットリーダー研修
 - ②鳥取県認知症実践者研修及び実践リーダー研修
 - ③ユニットケア全国実践者セミナー参加
 - ④老施協研究大会参加（県・中国）
 - ⑤認知症介護基礎研修
 - ⑥初任者・実務者研修
- 8) 介護ロボットの導入
- 9) ICTによる、記録の簡素化と情報共有
- 10) 適正な評価を実施し、それに対応した処遇改善

8. ボランティア活動の受入

社会資源の活用として、ボランティアを積極的に受け入れる。

9. 経営の安定化を図る

- 1) 入所者数（短期を含む）：利用率95%以上
- 2) デイサービス：1日当たり実利用者35名以上
中重度加算の再算定へ中重度利用者の増
- 3) 居宅介護支援：計画数の増加（介護予防含む）
30件/人 居宅介護支援計画
10件/人 介護予防居宅介護支援計画
- 4) 軽費老人ホーム：利用率90%以上

10. 地域住民の健康増進及び大山町まちづくりへの協力

大山町受託事業、自主事業（健康クラブ）を通じて、利用者の増加を図る。

- 1) 「ふれあいの郷かあらかやま」・地域（末吉・鈿戸、佐摩・中高・平木、坊領）の公民館等への出前教室
- 2) 交流センターにおいて近隣住民の健康体操の実施
- 3) 業者と連携した在宅介護機器の体験会や介護に関する相談会の実施

11. 各種委員会について

- 1) 運営会議

- 2) ユニットリーダー会議
- 3) ユニット会議・デイサービス会議
- 4) 行事实行委員会
- 5) 研修委員会
- 6) 安全衛生委員会
- 7) 広報委員会
- 8) 苦情検討委員会
- 9) 入所選考委員会

1 2. 地域、ボランティア、交流について

- 1) 家族会の活動支援
- 2) 夏祭り、文化祭等を開催し地域との交流を図る。
- 3) ボランティア受入の充実
- 4) 大山西小学校、大山小学校、大山きゃらぼく保育園、大山保育所との交流
- 5) 出前出張講座の実施
- 6) 青パトの実施 ※あおい

1 3. 社会福祉法人の情報公開と自己評価について

- 1) 経営情報の公開を行う
- 2) 自己評価を行う
- 3) HP における情報公開※運営規程等の需要事項等を含む

1 4. その他

- 1) 広報紙「やすらぎサルビア便」の発行（毎月）
- 2) 広報紙「めぐみ館通信」の発行（隔月）
- 3) 広報紙「浜辺」の発行（毎月）※あおい
- 4) ホームページの充実 (<https://keiaikai-daisen.com/>)

令和6年度目標

【さざんか・きゃらぼく】

◆運営目標

法人理念に沿った「まごころ」あるケアを目指し、「優しさ」「思いやり」「その人らしい」暮らしを支援する

◆重点目標

1. ご利用者に安心、安全に過ごせるよう、随時個々のケアの見直しを行い、状態に合わせた支援の提供をする
2. 日々の観察、変化に気づき、職員間、多職種と報告、連絡、相談を行い、情報共有をしていく
3. 気持ちの良い挨拶、ご利用者に寄り添い、笑顔が引き出せるケアを行う。

【すみれ・ふきのとう】

◆運営目標

「安心・安全」に過ごせ、居心地の良い環境の中での生活を支援する

◆重点目標

1. 「報告、連絡、相談」をきちんと行い、小さな変化でも記録を残し、情報を共有する
2. 福祉用具、眠りスキャン等の活用で職員の負担の軽減と、ご利用者の安全を確保する
3. コミュニケーション能力を身に着け、ご利用者の思いをくみ取ることで、信頼関係を深め、安心して過ごすことができるようにする

【しらかば・もみじ】

◆運営目標

ご利用者にとって心地よい空間づくりに努める

◆重点目標

1. 各職員が危険リスクの把握をし、ご利用者の生活上の事故を軽減する
2. 環境整備の強化
3. ご利用者の個別性に合わせた適切なコミュニケーションを心掛ける

【ユニット医務】

◆運営目標

利用者様の安心・安全な日常生活を維持できる支援の実施

◆重点目標

- ・利用者様の穏やかな生活を継続すること第一とし、看護師ができるケアを実施
- ・スタンダードプリコーションの徹底、感染予防策を継続する
- ・医師との連携にて、医療介入が必要な利用者様の早期対応の実施・必要時医療機関へのスムーズな連携の実施

- ・医療ニーズの高い利用者様に対して、医師との連携・家族様との連携・職員間での連携を実施し、施設での医療対応の決定実施と支援
- ・チームケアを基本とし、情報共有後、多職種で連携して継続的なケアの実施
- ・利用者様の生活環境の整備を率先して実施、必要時は介護職への指導実施
- ・常に自己研鑽を行う

【ユニットの相談業務】

◆運営目標

1. 入所申込者の拡大（各老人保健施設・居宅支援事業所・病院へ案内）
2. 退所後のスムーズな入所対応（7日間以内に）
3. ショートステイ利用者の受け入れ拡大（97%目標達成）
4. 家族会の開催（新型コロナ 5類変更後）
5. ボランティアへの行事等の企画

【栄養管理】

◆運営目標

食事を通して、ご利用者様の健康増進や日々の楽しみを提供する。

◆重点目標

1. 行事食を企画し、変化のある給食を提供する
2. 旬の食材を取り入れ、季節感のある献立作成
3. 多職種と連携を取り、迅速に対応する

【デイサービス】

◆運営目標

生活の楽しみや目標を共有し、ご利用者と共に笑顔を増やす。

◆重点目標

1. ご利用者の自宅生活が継続できるよう自立支援・機能訓練を行う
2. ご利用者の方々の可能な機能を最大限に活用し、維持・向上を図る

【ケアプランセンター】

◆運営目標

- ・町内に安心して暮らせるように、質の高いサービス提供を心掛ける
- ・専門性の研鑽に励み、地域や法人の発展に努める

◆重点目標

- ・地域、関係者と連携し、常に先を見据え、笑顔で支援に取り組み、信頼される介護支援専門員、事業所となる
- ・法改正を熟知し、検討、判断を行いつつ、より良いサービス提供に努める
- ・働きやすい環境を整え、健康管理に努めて業務を行う
- ・困難事例に対しても避けることなく受け入れ、事業所内や多職種協働で、望まれる生活ができるよう支援を行う。対応できる力を身につける

【大山やすらぎの里めぐみ館】

◆運営目標

1. ご利用者が楽しみを持ち、笑顔で暮らしていける環境を整える
2. 職員が働きやすい環境を整え、生産性を向上させる

◆重点目標

①PDCA サイクルを定着させる

- 1) モニタリング、サービス計画書作成には、受け持ち担当者、多職種が連携して評価・分析し、改善を目指したサービス計画書としていく。
- 2) サービス計画書に基づいたケアを実践する
- 3) 日々の記録にもケア実践の内容、効果を記載する

②外出支援、レクリエーションの積極的な実施

③自由に提案できる職場環境を整える

- 1) 心理的安全性を向上させる
- 2) 毎月ケア会議時に各職員が望む勉強会等、学びや自由に使用できる時間を設ける
- 3) 各職員の意見に対して、絶対に否定はしない

【機能訓練室】

○機能訓練

◆運営目標

入所者様の「自分らしい生活の獲得」が出来るよう動作能力に応じた自律（自立）支援を行います

◆重点目標

- ・入所者様、職員、双方にとって快適な介護ができるよう、介護手技の向上を図ります。
- ・生活の質の維持が図れる様、入所者様がしたいこと、できることを見つけ、生活リハビリとして多職種連携を行います
- ・ICT 機器や福祉用具を積極的に導入し、ご利用者様にとって質の高いケアを提供します

○口腔

◆運営目標

ご利用者様が食べることで日常生活が楽しくなるよう支援する

◆重点目標

- ・ご利用者様の口腔内環境を整え、食べるのが楽しみにつながるような関わりを持つ
- ・職員の口腔ケアの手技が向上するように指導を行う。

○元気アップ・健康クラブ

◆運営目標

ご利用者様の健康維持や増進、フレイル予防など様々なニーズに合わせたサービスを提供すると同時に、町民の皆様との交流の場として、多くの方に利用して頂く

◆重点目標

- ・ご利用者のニーズに沿い、満足して頂ける指導を行うこと
- ・運動の大切さを知って頂き、継続して利用して頂くこと
- ・イベント等を企画し、多くの方に興味を持っていただくこと

【皆生やすらぎの里あおい】

◆運営目標

職員の専門性の向上と地域共生を図りながら、多様化する利用者ニーズをくみ取り、日々安心、安全な生活を送って頂けるよう支援していきます。

◆重点目標

- ①心にゆとりを持ち、入居者様、職員とも笑顔で楽しめる環境作りに取り組みます
- ②入居者様が健康・安心・安全に生活を送れるよう、平時から多職種の連携を密にし、緊急時の対応にも取り組みます
- ③日頃からのコミュニケーションで入居者様との信頼関係を構築し、心身の状態に合わせた支援に繋がります
- ④行事やイベントをより賑やかに楽しめるよう、アンケート等も活用し、計画実行します
- ⑤事務業務に関わる低減・軽減・削減に心がけます